



# 賢治の詩

## 大正期の旭川

### 生き生き

東高正門の横に立つ賢治の詩「旭川」を刻んだ文学碑と松田嗣敏さん

の朝を見たままに明るく  
「気持ちの良い夏の北国

つてくれた」  
今年4月出版の著書「サ

#### 樺太への道中

表現している珍しい詩。妹トシの死で沈んでいた賢治の心を旭川という土地が救つてくれた

宮沢賢治の詩「旭川」全文  
ガレン(KADOKAWA)で、旭川と賢治の関わりを紹介したノンフィクション作家梯久美子さん(58)は札幌在住は、当時の賢治の心情をこう推測す

年が残した約千の詩の中に、旭川を題材にしたものがある。97年前の1923年(大正12年)8月2日朝、賢治が樺太(サハリン)への旅の途中で詠んだ詩「旭川」。賢治と旭川の縁を知る市民は少ないが、28行の詩からは、大正時代の街の息吹が生き生きとよみがえってくる。

(山中いづみ)



植民地風のこんな小馬車に  
朝はやくひとり乗ることのたのしさ  
〔農事試験場まで行って下さい。〕  
〔六条の十三丁目だ。〕  
馬の鈴は鳴り馴者は口を鳴らす。  
黒布はゆれるしまるで十月の風だ。  
一列馬をひく騎馬徒卒のむれ、  
この偶然の馬はハック二十一  
たてがみは火のやうにゆれる。  
馬車の震動のこじろよさ  
こんな小さな敏捷な馬を  
もっと引かないといけない  
この黒布はすべり過ぎた。  
馬車の震動のこじろよさ  
朝早くから私は町をかけさす  
それは必ず無上普提にいたる  
六条にいま曲れば  
おゝ落葉松 落葉松 それから青く顛へるポップラス  
この辺に来て大へん立派にやつてゐる  
殖民地風の官舎の一ならびや旭川中学校  
馬車の屋根は黄と赤の縞で  
もうほんたうにジプシイらしく  
誰がほしくないと云はうか  
乗馬の人人が二人来る  
そらが冷たく白いのに  
この人は白い歯をむいて笑つてゐる。  
バビロン柳、おぼほことつめくさ。  
みんなつめたい朝の露にみちてゐる。

梯さんは執筆の取材のため2018年9月に旭川を訪ね、賢治の足跡を追った。6条通で詩に登場するポップラやしだれ柳の木々を見つけ、「約100年前の景色と似ていて、賢治の記憶が土地に刻まれていると感動した。明るく開けた旭川に賢治が慰められたことは、マチの財産だと思う」と話す。

ガレン(KADOKAWA)で、旭川と賢治の関わりを紹介したノンフィクション作家梯久美子さん(58)は札幌在住は、当時の賢治の心情をこう推測す

る。

賢治は26歳で、岩手県立花巻農学校の教師だった。

樺太で教子の就職を世話

する目的はあつたものの、

前年11月にトシを病氣で亡

くしており、失意の中での旅でもあった。

7月31日に花巻を出発し、列車で旭川駅に到着したのは8月2日の午前4時55分。詩「旭川」は、賢治が駅から馬車に乗り、現在の平和通買物公園を通って6

03年の同校創立100周年を記念して建てられた。旭川宮澤賢治研究会の呼び掛け人松田嗣敏さん(62)は「東高の元校長だった故河村勁さんの力が大きい」と話す。

河村さんは1999年に東高校長に着任、創立100周年記念事業を準備する中で賢治の「旭川」に関心を持ち、松田さんに連絡を取った。

詩の中に東高の旧名「旭川中学校」が登場するのが決め手となり建立が決まり、2003年に除幕式が行われた。文学碑は高さ3・6m、幅4・5mの中富良野町産の珪岩で、石板に賢治の直筆を写して詩の全文を彫った。石は賢治と同じ地学が専門だった河村さんが選び、除幕式は賢治が旭川を訪れた8月2日に行われた。

賢治の短くも濃い旭川滞

文学碑と逸話

碑をより良い場所に、碑を譲ったと考えると面白い」と思いをはせた。

碑は当初、同校の現駐車場に建てる計画だった。ところが建立の直前に正門横のボプラの老木が枯死。計画を変更して、その空きスペースに建てられた。松岡さんは「樹齢を考えれば、枯死した老木は賢治が実際に見たものだと思う。文学

碑をより良い場所に、碑を譲ったと考えると面白い」と思いをはせた。

碑をより良い場所に、碑を譲ったと考えると面白い」と思いをはせた。